

第四次大野市子ども読書活動推進計画(案)に係るパブリックコメントの結果

1 パブリックコメントの実施状況

- (1) 案件名 第四次大野市子ども読書活動推進計画(案)について
- (2) 募集期間 令和4年3月25日(金)から4月7日(木)までの14日間
- (3) 意見提出状況 提出意見:10件(提出方法:書面10件)  
提出者 :7人(書面7人)

2 意見の概要とその意見に対する市の考え方

該当箇所	番号	意見の概要	市の考え方	修正
P1	1	<p>子ども達の取り巻く読書環境は、今まで以上に厳しいものになってきている。</p> <p>読書は、ゆっくり文字を追いながら何度も繰り返し自分のペースで読み深めていくことや行間の中に想像力を働かせること、思いもしなかった遠く広い世界へ誘い、豊かな人間性や生きる力を培ってくれるなど一つ一つ挙げてはきりが無い。</p> <p>しかし、その読書力は文字を自分で読み進めることでしか獲得できない力であり、自動的であるがゆえにその世界の喜びを味わうまでに多くの支援を要する。ましてや、この厳しい読書環境では尚更である。</p> <p>そのために、第4次大野市子ども読書活動推進計画が定められたと考える。今日の厳しい環境下で子ども達を読書にいざない、子ども達に読書力をつけるための支援策がとられていることをこの策定の趣旨に見ることができる。</p> <p>しかし、デジタルメディアの普及は、コロナ禍で一層拍車がかかり必要不可欠なものになり、その地位は益々高くなってきている。広く浅く早くであるがゆえに、受動的であるにもかかわらずである。子ども達のデジタルメディア環境は、子ども達の興味関心と社会の求めるものと合致し、今後、予想をはるかに超えるものになるだろう。</p> <p>それゆえ、子ども読書活動推進計画が令和4年度</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>大野市子ども読書活動推進計画は5年ごとに改訂を行うこととしています。5年間では長いとのご指摘ですが、子ども達の読書の状況に応じて、本計画に基づいて対応してまいります。</p>	なし

		<p>から令和8年度までの5か年間とするのはあまりに長いものではないか。</p> <p>変化の激しい今、じっくり取り組まねばならないものと早急に取り組まねばならないことを絶えず見極め、その対策が必要ではないか。本推進計画にもその思いは汲み取れるが、懸念するところである。</p>		
P3	2	<p>家庭における読書活動は、子どものデジタルメディア機器の使用について記載されていますが、世界的な流れは、デジタル化、ペーパーレス化に向かっていきます。この流れは、SDGsの観点などから、止められないように思います。</p> <p>しかし、身近なデジタル技術では、子どもの発達段階において、まだまだ、紙の本を読むことや、本の読み聞かせに及ばない良い点があると思います。課題として「家族間でデジタルメディア機器の使用上の留意点について、一緒に考えていく必要があります。」と記載されていますが、紙の本の良さについても一緒に考える必要があると思います。</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>本計画案は、紙媒体の本を子どもに届けることを基本にしています。各関係機関で、紙の本の魅力を子どもに届けていきます。</p>	なし
P4	3	<p>現代社会において、デジタルメディア機器が急速に入ってきて、生まれてすぐとっていい程、影響されていく生まれたての子どもたちが、自分が持って生まれた能力を同質の機械に刺激されて、育っていくのは、深み、広さ、独自のなどいろいろな天性の面で、決まった形で身につけていくのが、とても心配。生まれたてから3才の子どもたちは、特に機械でなく自然なもの、手づくりのもの、個性的なもので個々の能力が選んでいて、育ててほしいと思います。</p> <p>そこで大野の子どもが生まれたら、一人一人(全員)に、「お誕生日おめでとう!」と「生まれて来てくれて有り難う!」と誕生祝に絵本を5冊ずつ位贈ったらどうだろうか、心から願っていることです。</p> <p>大野市は子育てに力を入れているのでとても共感を得られるのではないかと思います。</p> <p>子どもたち一人一人が心身共に豊かに成長してもら</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>大野市では平成22年度から、大野市に生まれた全ての赤ちゃんを対象に、ブックスタートで絵本を2冊と布製絵本バッグをプレゼントしています。その際には、「お誕生日おめでとう!」「生まれて来てくれて有り難う!」とメッセージを伝えて、一人一人に手渡しをしています。今後もブックスタートを通じて、赤ちゃんの成長を願い、保護者の方々の子育てに寄り添った子どもの読書活動を推進していきます。</p>	なし

		うのが一番の願いです。		
P5	4	小学生の時から大変お世話になっています。 子ども達に本に触れさせる機会を増やせると思うので、閉館時間を19時にしていただくようにご検討いただけると幸いです。	ご意見として承ります。 本計画案は、子どもの読書に関する計画ですので、今回は開館時間の延長を対象としてはいません。	なし
P5	5	小学校でのブックトークでは、館長におはなしや本の紹介をしてもらえる機会があつて、子どもも楽しみにしていました。中学、高校と大きくなるにつれ、その機会がない(少ない?)のは、残念に思います。むしろ、本との出会いや楽しさを知って欲しい年齢と思うので、そのような機会があると良いなと思いました。	ご意見として承ります。 現在、依頼に応じて市内中学校、高等学校へ出向いてブックトークの対応をしています。今後も継続して対応していきます。	なし
P6	6	読書習慣の形成に向け、読書活動を計画的に推進していくことが求められます。とあるが、具体的にはどんなものか。 ・高校の家庭科の授業の保育分野で絵本を扱っているが、他地区の生徒に比べ、大野市の子は絵本(スタンダード等質の良い絵本)をよく読んでもらっていると感じている。10年程前からそう感じてきたが、近年、よりそう思う。学校司書の配置は重要です。適正配置が望まれます。 ・これからますます、学びに向かう力や人間性が重視されていくなかで、学校における司書の役割は大きいと感じている。より専門的な知識技能をもった司書が必要。配置実現のために、どのような取り組みがなされているのか。 ・学校だけでなく、市の図書館の司書も少なすぎると思う。本屋のような仕事や事務処理能力が高いだけでは良い図書館とはいえないと思う。先にも述べたが、大野市の子供達が多くよい絵本と出会っているのは現在の大野市図書館の司書さん達が頑張ってくれているからだと思う。 ・学校図書館法 第5条、6条 計画策定とあるので、その基準となる法律は引用	学校図書館法については、本計画案に記載します。 図書館では現在子どもの年齢に応じて、①わらべうた②赤ちゃん絵本③昔ばなし、創作絵本④科学絵本⑤幼年文学⑥児童文学の順番に、著名な書物を、読み聞かせやストーリーテリング、ブックトークの手法を使って届けていきます。 学校司書の適正配置の実現は重要な課題ですので、慎重に考えて取り組みます。	あり

		<p>ではなく、しっかりと明記した方がよいのではないか。</p> <p>いろいろと書かせていただきましたが、自分も自分の子ども達も大野市図書館でたくさんのことを学ばせていただき感謝しています。大野市図書館は今のままでも充分素敵な図書館だと思うので、ぜひ守ってもらいたいし、より良くなっていてもらいたいと思い、パブリックコメントに参加させていただきました。</p>		
P8	7	<p>「絵本の読み聞かせ会」</p> <p>ボランティア活動をさせていただいています。退職後の高齢者ですが、私は生きがいを感じています。こんなに素晴らしい絵本たちをどうして子ども達に会わせずにいられましようかという強い思いを持っています。</p> <p>絵本は、すばらしい大人の方々が自分の人生をかけて自分が生涯感じた魂の叫びを絵本にしているのです。このような社会的財産を子ども達に触れてもらうために、先に生まれた大人がその機会を準備しなかったら子ども達に申し訳ない。しかもその期間はわずかです。時期があります。人間に必要なものを身につけるためには、思いついた時とか、時間ができたらでは間に合いません。それは、相手（絵本、本）に合わせるというか年齢に合わせる事が大事だと思います。</p> <p>読み聞かせのボランティアをどんどん育てて、また絵本を研究して、生きる後輩たちの人格形成に少しでも役に立ちたい。</p> <p>他人様の役に立つ、ましては子ども達の役に立つなら、この上ない生きがいではないでしょうか。（高齢者の共用として、必要ですね。）</p> <p>大人が絵本に出会えば感動の連続です。絵本に出会って本当に良かったと思います。年をとっていればこそということが特に感じられます。</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>現在50名の方々に、絵本の読み聞かせボランティアとして協力していただいています。絵本の研修も定期的実施していますので、継続して取り組んでいきます。</p>	なし
P8	8	<p>クリスマス会や図書館まつり、とても楽しませていただいています。コロナ禍でも活動を継続してくださることで、どのような環境でも子どもたちに（もちろん親も）本を身近に感じられる場をつくってくださっていることに感</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>ご期待にそえるよう、今後も子どもの読書活動の推進に取り組んでいきます。</p>	なし

		<p>謝しています。</p> <p>また、幼少期だけでなく、小学生、中学生、高校生と成長の段階に応じて細かなニーズに対応した行事や自習室、大野にいるあいだはずっと本がすぐそばにあるということが当たり前になるような図書館の取り組みに、これからも親子共々ずっと利用していきたいと思っています。</p>		
P10	9	<p>家庭における読書活動の推進で、「子どもや保護者が気軽に本に触れることができる環境をつくりまします。」と記載されていますが、文章に句読点がなく、「が」が2回も出てくるので、意味がわかりにくいです。</p> <p>「子どもや保護者が、気軽に本に触れる環境をつくる」のか、「子どもや保護者が、本を気軽に触れられる環境をつくる」のか、ふた通りの意味が考えられます。</p> <p>おそらく「子どもや保護者が、本を気軽に触れられる環境をつくる」とのことでは無いかと思いますが、その場合、その環境をつくる主体は誰になるのかが不明確に思います。</p>	<p>ご提案いただいた意見については、次の通り修正します。</p> <p>修正前 「子どもや保護者が気軽に本に触れることができる環境をつくりまします。」</p> <p>修正後 「子どもや保護者が、気軽に本と出会える環境をつくりまします。」</p> <p>環境をつくる主体は、それぞれの関係機関です。</p>	あり
P10	10	<p><b>読書環境の整備</b></p> <p>現在の図書館には、小中学生がたくさん来ても読図する場所がない。増設する位の気持ちで読書室を増設したらどうだろうか。たくさん本がある中で読書する。調べものをする。自分の知らなかった本を知る・・・そういう環境は将来社会に出た時に、また研修する時にとっても役立つと考えられる。人間は習慣で生きる生物というか活動者なので、小・中学生の時に、自ら読書を！でなく、全員の小・中学生に対する読書環境が必要だとつくづく思っている。</p> <p>読書に慣れている人は、自分を変えたり、自分が変わったりしていくのを自覚できると思われるので、(理由:本を読むということは、自分で自分を問おいていく作業)とても柔軟性が発揮されるのではと思います。</p> <p>仕事で、研修で、時間があって退職後とかに本に出会った時に、これまで生きてきた観念にこりかたまつた</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>図書館の学習室、閲覧室は、現在新型コロナウイルス感染防止対策として、椅子の間隔を空けているため座席数が少なくご不便をおかけしています。何卒ご理解をいただきたく存じます。</p> <p>今後も小・中学生に、人生の糧となるような本を勧めていきます。</p>	なし

		り、今さらとかそういう気持ちにならず、勇気をもって自分を変えていってより人生を豊かに出来るのではないかと思ったりします。		
--	--	--	--	--